

## 努力賞 (子どもの部)

「本当のやさしい心」

荒川区立汐入東小学校三年

川瀬 優月

柳田先生こんにちは。わたしは、「ごんぎつね」という絵本を読みました。

この絵本は、夏休みに調べる学習で使いました。その時はかんたんにあらすじなどを読んだだけだったけれど、後になり、お話のおもしろいところや、ふしぎなところが頭にうかんでくることがありました。ちょうどこの絵本が学校の図書館にあったのでえらびました。

わたしの中で一番おもしろいと思ったのは、ひ

ようじゅうというお百しょうさんにくりや、まつたけをごんが家においてるのにひようじゅうがそれを神様がささげてくれたものだと思い、ごんが「つままない」と思っているところがかわいいからです。わたしもきづかれないのは、いやだからごんの気持ちはよくわかります。ただわたしは、そういう時、たぶんはつきりと言うと思います。

わたしはとてもふしぎでかなしいことが一つだけあります。ごんがうたれてしまうことです。まつたけをおいてかえろうとしたら気づかれ、うたれてしまいました。ひようじゅうがかけよって見るとくりやまつたけをいつもおいているのがごんだと気づきました。その時火なわじゅうから青いけむりがでていました。わたしは、この青いけむりがごんのたましいだと思いました。そう考えると、な

みだがでそうになりました。

この絵本を読んでかわったことが一つあります。それは、やさしい心はだいじだということ。わたしは、自分が思っている以上やさしいかわかりませんが、ごんがとてもやさしくなれたので、わたしもいつかもっとやさしくなりたいです。青いけむりがとてもふしぎです。柳田先生は、どう思いますか。